

<p><b>【技術の名称】</b>                  炎工法                  ースラリー系機械攪拌式深層混合処理工法ー（改定1）</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第22-40号 改1                  性能証明発効日：2023年10月4日                  性能証明の有効期限：2026年10月末日</p> <p><b>【取得者】</b>                  株式会社刃、株式会社ソイル基工、                  ランドプロ株式会社、東昌基礎株式会社、                  誠信 GLOCAL 株式会社、株式会社サンベルコ、                  有限会社テクニカル九州</p>
---	---

**【技術の概要】**

本技術は、セメント系固化材のスラリーを吐出しながら地盤を掘削攪拌することで、柱状の地盤改良体を築造する機械攪拌式深層混合処理工法である。本技術の特徴は、共回り防止翼とその上部の攪拌翼および下部の掘削翼との間隔の和と改良径との比率をほぼ一定にした独自開発の掘削攪拌装置を用いることである。

**【改定の内容】**

新規：GBRC 性能証明 第22-40号（2023年4月18日）  
 改定1：GBRC 性能証明 第22-40号 改1（2023年10月4日）

- ・適用地盤の拡大（粘性土にロームを含める）  
 ただし、小規模建築物に適用する場合はロームを含まない。

**【技術開発の趣旨】**

従来の深層混合処理工法は共回り防止翼と攪拌翼および掘削翼との間隔の和が改良径の大小によらずほぼ一定となっており、これが改良体の品質にばらつきが生じる一つの原因になっていると考えられる。本技術では、共回り防止翼と攪拌翼および掘削翼との間隔の和と改良径との比率をほぼ一定とし、また従来工法より上記間隔の和を小さくすることで、攪拌不良が起りやすい粘性の強い粘性土を効率よく解砕できる掘削攪拌装置を開発した。

**【性能証明の内容】**

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「炎工法 施工指針」に従って築造される改良体は、土質に応じて 400～2,000kN/m<sup>2</sup> の設計基準強度を確保することが可能であり、配合設計および品質検査に用いる改良体コアの一軸圧縮強さの変動係数として、砂質土（シルスを含む）および粘性土（ロームを含む）で 25%が採用できる。

また、本技術については、規定された施工管理体制が適切に運用され、工法が適正に使用されている。



写真-1 掘削攪拌ヘッドの例（φ1000）

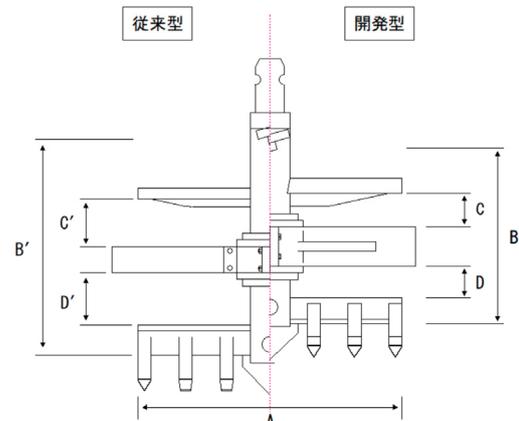


図-1 従来型と開発型の形状比較

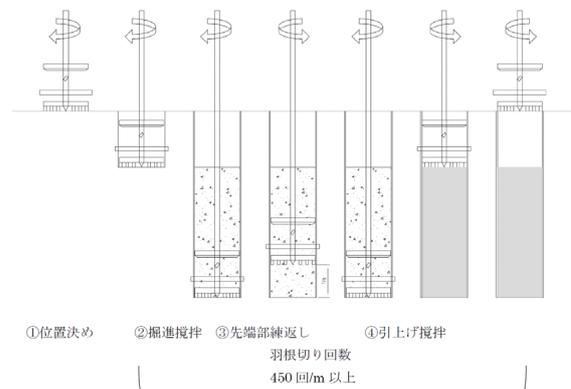


図-2 施工フロー（1サイクル施工）

**【本技術の問合せ先】**

炎工法協会（株式会社刃 内） 担当者：西野 康宏  
 〒103-0044 東京都中央区東日本橋 1-2-6SNS 東日本橋ビル 5階

E-mail：info@homura-koho.jp  
 TEL：03-5829-4542 FAX：03-5829-4543